

令和 3 年 6 月 2 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02212

研究課題名（和文）明清時代における濬湾（江西金溪）の出版業に関する総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive research on the publishing industry in Xuwan (Jiangxi Jinxi) during the Ming and Qing dynasties

研究代表者

陳捷 (CHEN, JIE)

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授

研究者番号：40318580

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、明清時代において書籍の重要な生産地であった江西省金溪县濬湾鎮の書籍出版業の形成、各時期の発展状況、出版された主な書籍の内容および書籍販売のネットワークについての研究である。研究期間中に、明清時代の濬湾およびその周辺地域の出版物を中心としての出版目録を作成し、原本の書籍調査を行う同時に、それらの書物の内容、編纂過程、出版背景や出版した書肆について考察した。調査研究を通して、当該地域の書物の出版および販売に関して新たな知見を得ることができた。研究成果の一部はすでに複数の学会で発表し、現在さらに資料を充実させつつ論文の作成を準備しており、近いうちに学術雑誌において公開する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、濬湾の出版業の具体像やその盛衰の歴史をある程度明らかになり、地方書肆における書物生産の過程・経営組織および在地の知識人の関与、販売ネットワークなどに関するケーススタディとして、濬湾の歴史文化に関する研究のみではなく、明清時代の出版印刷史や書籍の伝播の様相の研究にとっても大きな貢献であると思われる、重要な意義を有するものと思われる。

研究成果の概要（英文）：This study is based on the formation of the book publishing industry in Jinxi, Jiangxi Province, which was an important book producing area during the Ming and Qing dynasties. During the research period, we created a publication catalog centered on publications in Xuwan and its surrounding areas during the Ming and Qing dynasties, and conducted a bibliographic survey of the originals. We were able to gain new insights into the publication and sale of books in the region. Some of the research results have already been presented at multiple academic societies, and we are currently preparing to write a treatise while further enhancing the materials, and we plan to publish it in an academic journal in the near future.

研究分野：中国古典文学 書籍交流史

キーワード：明清出版史 中国出版史 書物史と社会史

## 1. 研究開始当初の背景

明清時代の出版印刷史の研究は、従来においては、版本の鑑定・テキストの系統分析などの版本学的な研究と、各時期における出版中心地の状況に関する考察が主であり、生産過程と経営とに関する文献記録が少ないため、印刷技術および工程に関する具体的な考察や、印刷工房の生産状況から書籍販売の組織に至る、生産・販売過程に関する研究は極めて少ない。また、研究方法としては、文献調査による手法がメインであり、フィールドワークに基づく印刷工房・書肆に関する考察はあまり行われていない。近年においては欧米の学者を中心として、宋代から明代にいたる福建省の建陽の出版業に関する研究、さらには福建省西部に位置する四堡の出版活動に関する考察などの出版業についての研究が、飛躍的な進歩を遂げている。

本研究の対象である潞湾鎮は福建省に隣接する江西省東部の金溪县にある村落であり、明清時代においては書籍の重要な生産地であり、全盛期においては、六十軒以上の印刷工房や書肆があったといわれる。文化的環境は良好であり、科挙試験の合格者を輩出する地域でもあり、当地在住の知識人が書物の編纂や校勘などを行い、出版業をサポートしたものと思われる。そこで出版された書籍は近隣地域のみならず、四川・武漢・北京に至るまで販売され、さらには日本まで輸出されている。

研究代表者は中国の古典文献学を専門としており、木版・活字印刷技術の発展と歴史的背景や、各時代の書物の流布状況に興味を持っており、近年、木版・活字印刷技術の東アジアにおける受容と変容を研究するために、営利出版としての出版業の生産過程や書物の販売ルートなどについてとくに関心を持っている。日中両国間の古典籍の流通ルートを考察するために明清時代の出版地を調査しているうちに、金溪潞湾の出版業に注目するようになった。

## 2. 研究の目的

本研究は、明清時代において書籍の重要な生産地であった江西省金溪县潞湾鎮の書籍出版に焦点を合わせ、その地域の出版業の形成の歴史、各時期の発展状況、出版された主な書籍の内容を検討し、具体的な印刷技術・生産過程に関する考察を行い、さらにその経営組織と全国的な書籍販売のネットワークについても明らかにすることを目的としている。

## 3. 研究の方法

研究方法としては、文献調査、考証の手法とフィールドワークに基づき、まず、現存する明清時代に潞湾および周辺地域において印刷された書籍を調査し、明清以降の蔵書目録・地方文献なども参考にし、潞湾における出版目録を作成する。所蔵機関に収蔵されているそれらの書籍を調査し、その内容と編纂・出版の過程について考察する。また、地方文献・族譜家譜類の調査を行い、潞湾の出版業の形成・盛衰の歴史や書籍の生産過程、経営組織、販売ネットワークについて分析を行う。これらの調査研究作業により、潞湾で出版された書籍の内容を解明し、その印刷技術・生産過程、経営組織および販売ネットワークを考察し、潞湾の出版業の歴史的な歩みを明らかにしていく。

## 4. 研究成果

(一) 研究期間において、中国の北京、上海、南京、江西などを訪問し、中国国家図書館、北京大学図書館、上海図書館、復旦大学図書館、南京図書館における文献資料調査とフィールド調査を行った。また、日本国内において、東京、大阪、京都、福岡を訪れ、日本国内に収蔵されている金溪の出版物およびそれらの出版物を底本として翻刻された和刻本漢籍の書誌調査を行った。これらの調査に基づき、さらに諸種の文献目録の著録を参考資料として、明清時代の潞湾およびその周辺地域の出版物を中心とする出版目録および金溪で出版された書物を底本とした和刻本の目録を作成している。

(1) 『明清時代における金溪地区出版目録』（未定稿）

(2) 『金溪地区出版物日本翻刻本目録稿』（未定稿）

(二) また、上記の目録稿を手がかりにして、この地域における出版物の原本の書誌調査を行い、さらにそれらの書物の内容・編纂過程、出版背景や出版した書肆について考察し、金溪の出版物の書誌を作成している。

(三) 現在、金溪の出版物の代表例として、明の嘉靖三十九年に刊行された『象山先生全集』、萬曆年間に刊行された『新編古今事文類聚』、清代において出版された『増訂漢魏叢書』、『漢魏遺書鈔』などを取り扱い、これらの書物の編纂、刊行過程および出版に関わっていた金溪唐氏、金溪王氏、金溪孫氏などの書肆の活動について考察を行っている。さらにこれらの研究から得られた知見から、清代初期から乾隆・嘉慶期にかけての叢書の編纂・出版に注目し、商業出版と密

接に関係していた在地の知識人による叢書編纂活動についても、一定の研究成果を挙げている。

(3) 「乾隆・嘉慶期における叢書の編纂と出版についての考察」、川原秀城編『漢学とは何か—漢唐および清中後期の学術世界』(アジア遊学 249)、pp. 148-172、勉誠出版、2020. 7

(4) 「An Examination of the Compilation and Publication of Collectanea during the Ch'ien-lung and Chia-Ch'ing Reigns」、*What Is Han Scholarship?: With a Focus on the Han-Tang and Mid-to Late Ch'ing Periods*, ACTA ASIATICA: Bulletin of the Institute of Eastern Culture, No. 120, The Tōhō Gakkai, pp. 51-72, 2021. 2

これらの調査研究を通して、金溪县浒湾鎮の書物の出版・印刷および販売に関して新たな知見を得ることができた。研究成果の一部はすでに複数の学会で発表し、現在さらに資料を充実させつつ論文の作成を準備しており、近いうちに学術雑誌において公刊する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 陳捷	4. 巻 上冊
2. 論文標題 接受・融合・創新：從『毛詩品物図考』看十八世紀日本『詩經』名物学研究の特色	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 顧永新編『経学文献学研究』、北京大学出版社	6. 最初と最後の頁 231-246
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陳捷	4. 巻 1
2. 論文標題 経学註釈と博物学の間 江戸時代の『詩經』名物学について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 陳捷編『医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界』、勉誠出版	6. 最初と最後の頁 245-264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陳捷	4. 巻 1
2. 論文標題 乾隆・嘉慶期における叢書の編纂と出版についての考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 川原秀城編『漢学とは何か』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陳捷	4. 巻 第4期（総第107期）
2. 論文標題 「接受・融合・創新：從『毛詩品物図考』看十八世紀日本『詩經』名物学研究の特色」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『中国典籍与文化論叢』	6. 最初と最後の頁 139-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 陳捷	4. 巻 31
2. 論文標題 「和刻本の変種 中国に伝わった日本の版木とその摺本について」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要『文化交流研究』	6. 最初と最後の頁 pp.27-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陳捷	4. 巻 上
2. 論文標題 「遼宋書館銅版『西清古鑑』の出版について」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 早稲田大学中国古籍文化研究所編『中国古籍文化研究 稲畑耕一郎教授退休記念論集』	6. 最初と最後の頁 pp.101-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 陳捷
2. 発表標題 経学注釈と博物学之間：關於江戸時代的『詩経図』
3. 学会等名 「2018近世意象与文化轉型国際學術研討会」、マレーシア漢学研究会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 陳捷
2. 発表標題 「清末銅版印刷与日本」
3. 学会等名 第10回東アジア文化交渉学会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 陳捷
2. 発表標題 幻灯中的戰爭：略談日本在甲午和日俄戰爭時期的幻灯宣傳
3. 学会等名 「戰爭与近代中国之形塑」ワークショップ、復旦大学（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 陳捷
2. 発表標題 「比較書誌学の立場からみた日本古典籍：中国古典籍との比較を通して」
3. 学会等名 、第4回日本語の歴史的典籍國際研究集会、国文学研究資料館（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 陳捷
2. 発表標題 「從岸田吟香看十九世紀七八十年代中日民間往来」
3. 学会等名 第三回「南京論壇」國際フォーラム「理解与対話——構建巫太命運共同体」（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した國際研究集会

〔國際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------